

☆ケース会議の進め方

ケース会議のメリット

- 1 複数の先生方で考えることで、多様な見方、多様な考えから支援策が生まれる。
- 2 子どもの理解と支援策が共有できる。
- 3 チームで対応“一人で頑張らない”雰囲気づくりができる。



ケース会議を進めるポイント

《まず、話し合いのルールを確認する！》

ルール

- ① 取り上げたい行動（事実）を確認しておく。 ※1つに絞る！！
- ② 「ゴールは具体的な支援策を共有すること」を確認する。
- ③ 担任や担当のこれまでの取り組み、質問や考えた支援策に対して、批判的否定的な発言をしない。
- ④ 出された意見は全て取り上げる。
- ⑤ 良い悪いではなく、子どもに合っているかどうかの視点で話し合う。

話し合いは、雰囲気がとても大切です。
発言や考えを否定する雰囲気があると、良い意見が出されにくくなります。組織力を生かし、多角的に子どもを見て、解決策を見いだしていきましょう。



《体験した先生方の話から》

様々な先生の気づき、発想がいろいろあるので、どのようなアプローチができるのかを整理できました。

自分が一人じゃない！と嬉しくなりました。

この考え方は、生徒指導の観点にも使えます。生徒指導部会でも使ってみようと思います。

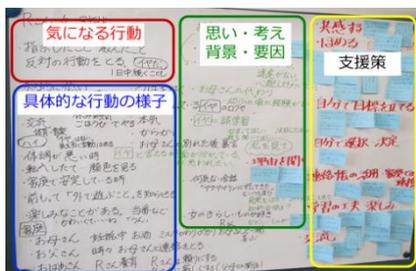
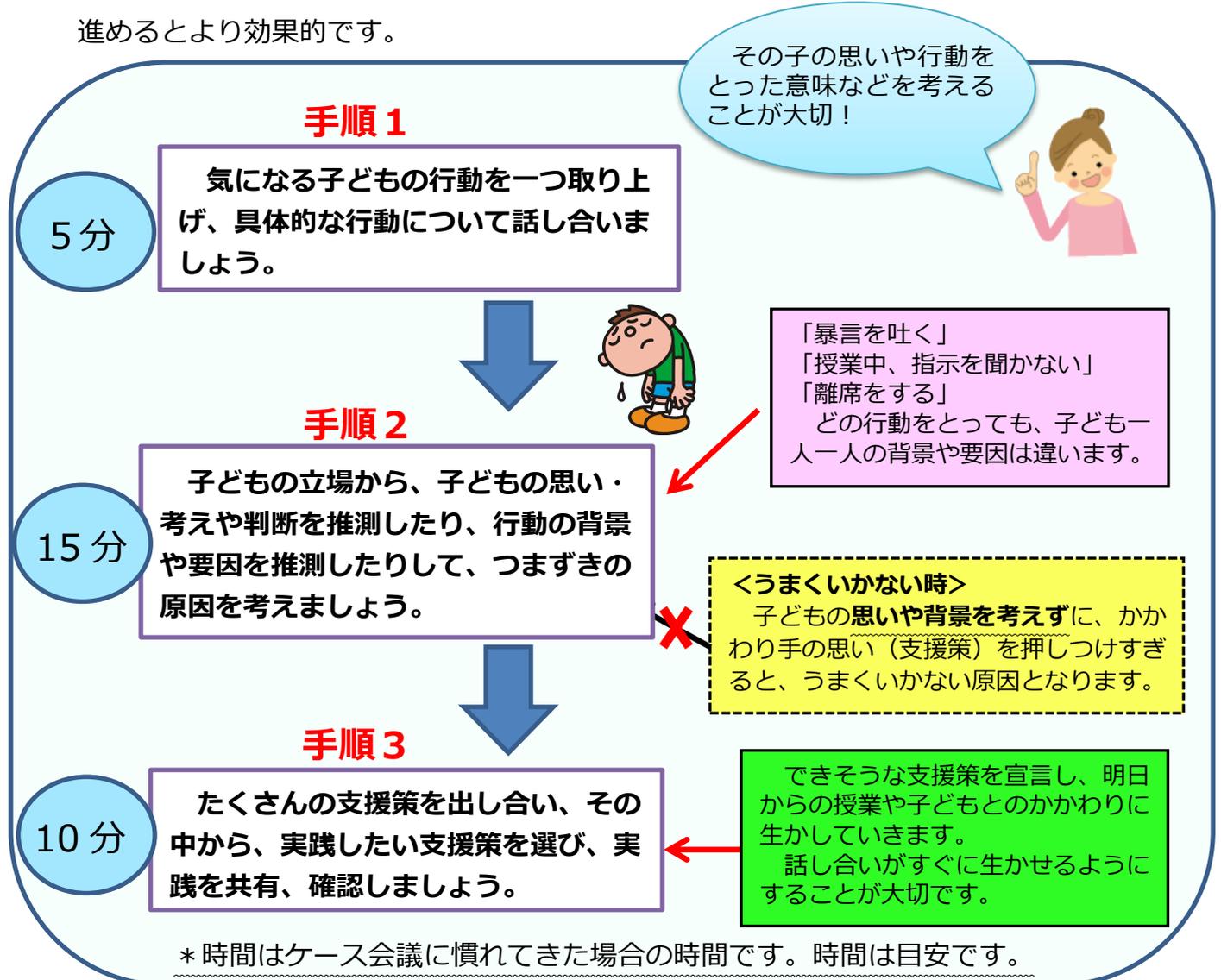


さあ、始めましょう！
具体的な話し合いの進め方は次ページです！！



ケース会議の進め方

* 進行役は、特別支援教育コーディネーター等、事例検討をする子どもの担任以外の先生が進めるとより効果的です。



話し合いには、ホワイトボードや黒板などでの記録がお勧めです。話し合った後は、そのまま、写真に撮り、支援内容としてファイルすると多忙な中でも負担感なく、かつチームで支援ができます。



メンバーの集め方

- 話し合える気軽なメンバー 3～4 人で。
(学年、教科担任、教務担当、養護教諭、研修グループ、特別支援教育コーディネーター等)
- 校内組織（特別支援委員会、生徒指導協議会等）を活用して。

身近なメンバーでケース会議を行い、効果を実感できたら、少しずつメンバーを広めていくことも方法の一つです。

